

7 国際交流

進捗状況報告

本学の国際交流に関する基本方針に則り、理工学部においても外国人研究者の積極的な受け入れ、研究情報の交換を引き続き行っている。外国人研究者の受け入れ状況については、理工学研究科の欄を参照されたい。国際交流と関連して、理系の学術分野で「使える」英語能力を磨くための「科学技術英語」、「科学技術英語実習」を2004年度から開講しているが、キャンプ形式で行っている「科学技術英語実習」の定員を学生のニーズに応じて40名から70名に増員した。

また、2005年度に特色GPに採択された「理系のためにデザインした英語教育システム」の活動の一環として「関学英語フォーラム」を2005年度1回、2006年度2回開催した。このうち2006年度のフォーラムでは、講師をアメリカから招聘した。

ネットワークの活用については、上述の「科学技術英語実習」で海外の大学とのテレビ会議を実施しているが、まだ有効な活用方法を模索している段階であり今後ソフト・ハード両面での充実が望まれる。優秀なネイティブの英語常勤講師を確保するための方策については、「11. 教育組織」参照。

学内第三者評価

認証評価では「教育・研究の国際的な交流を活発にし、海外大学との間で教員・学生の交流を促進する」「英語教育を充実して、自然科学の分野における情報発信とコミュニケーションを促進する」などの点で高い評価を受けている。その後も引き続き、実績を上げている点は評価できる。

なお、特別委員からは以下の意見があった。

- 英語12単位を必修にしたり、「科学技術英語」等の開講、「関学英語フォーラム」の開催、ネイティブスピーカーの活用など多様・積極的な取り組みが行なわれてきている。「理系のためにデザインした英語教育システム」（文部科学省特色ある大学教育支援プログラム）にも採択され、英語教育の内容は科学英語に十分配慮したものになっている。

- 研究者派遣の短期は順調に推移しているが、長期がほとんどない。外国の研究者とネットワークを形成して、先端研究の情報を常時獲得していくことが大切である。